

令和7年度

藍住西小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な内容の確実な習得をめざす授業の実践
- 言語活動の充実を図り、考える力を身につけさせる授業の実践

校長

学力向上推進員

【小中連携における共通の取組】

ICTの効果的な活用と話し合い活動の充実により、児童生徒の学力向上を図る。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決まったことは真面目に取り組むことができる児童が多い。 ●学力に個人差があり、学年が進むほど学力の開きが大きい。長い文章を読み取ったり、応用問題で既習事項を活用することに課題がある。	各学年の基礎的・基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 (単元テスト知識・技能領域80%) 教科書が音読でき、文章の内容や問題文の意図等の課題解決のために必要な情報の読み取りができる。	授業や学年タイムを活用し、反復練習と復習を行い単元テストを実施する。知識・技能分野の習得率を確認し復習に活かす。 音読・視写・週末読書を継続的にを行い、語彙力を向上させる。また、読み取るためのポイントを指導し読み取る力の向上をめざす。(うつしまる・阿波っこタイム等を活用) 発達段階に応じて学習規律を掲示し、視覚的に確認できるようにする。学習規律の定着を図るために、学校全体で根気強く、繰り返し指導を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話型や定型文に沿って、自分の意見や考えを発表することができる。 ●自分の考えをまとめたり、表現したりすることに苦手意識がある児童が多い。	自分の考えを持ち、場面に応じた言葉で書いたり、発表したりすることができる。 友達の意見を聞き、疑問を持ったり、比較したり、新しい意見を出したりして、自分の考えを深めることができる。	書き表す(ノート・ワークシート・タブレット等)活動の時間を設定し、自分の意見や考えを持たせ、表現しやすくする。 自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする経験を増やすために、必要に応じてペア学習、グループ学習を効果的に設定し、成功体験を積ませる。 多様な考え方を引き出す発問について工夫する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対しては、前向きに取り組もうとしている。 ●自分から進んで課題を見つけて取り組むことが苦手である。文章題や応用問題になるとあきらめてしまう児童が多い。	学ぶことを楽しいと感じ、意欲的に学習に取り組むことができる。 課題解決に向けて、見通しをもって学習に取り組むことができる。 家庭学習や読書活動に主体的に取り組むことができる。	ICT機器等を活用して興味・関心を高め、様々な学習の場を設定し、学習に取り組もうとする意欲を持たせる。 毎時間、学習のめあてを示し、課題解決への見通しを持たせる。キーワードを提示し、まとめや振り返りをさせることで、充実感や達成感、次時への意欲を高める。 家庭学習の手引き、学年に応じた自主学習の手引き等をもとに、家庭学習・週末読書を支援し、家庭との連携を図る。			